

- 問1 奈良時代、聖武天皇は社会の不安を鎮めるために、仏教の力によって国を守るという考えを政治に取り入れました。この思想を何と呼びますか。  
(2020年 東京都公立入試 類似)
1. キリスト教の教義                      2. 鎮護国家の思想                      3. 国家神道の考え                      4. 浄土真宗の教え
- 
- 問2 8世紀の律令制のもとで、九州全域の統治を行うとともに、大陸との外交や国防を担う拠点として現在の福岡県に設置された行政機関を何といいますか。  
(2020年 大阪府公立入試 類似)
1. 開拓使                      2. 大宰府                      3. 六波羅探題                      4. 多賀城
- 
- 問3 8世紀の日本において、平城京が唐の都を模範として大規模に建設された目的や背景について、最も適切な説明を選びなさい。  
(2020年 長野県公立入試 類似)
1. 大陸からの軍事的侵攻に備えるため、山に囲まれた要塞都市を築く必要があったため。                      2. 仏教の地方普及を制限し、都の一部の人々だけに信仰を限定させるため。                      3. 地方の豪族たちが独自に交易を行わないよう、すべての市場を都の内部に集約するため。                      4. 天皇を中心とする律令国家の威信を国内外に示し、統治の拠点とするため。
- 
- 問4 奈良時代の律令制度において、平民に課せられた「租・調・庸（そ・ちょう・よう）」という税体系がありました。このうち、主に地方の特産物を納める「調」と、労役の代わりに布を納める「庸」の組み合わせとして正しいものはどれですか。  
(2016年 高知県公立入試 類似)
1. 調は収穫した稲、庸は地方の特産物                      2. 調は布、庸は収穫した稲                      3. 調は収穫した稲、庸は布                      4. 調は地方の特産物、庸は布
- 
- 問5 日本の歴史の流れを整理した年表において、律令国家の成立期と院政の開始期の間に位置し、唐の長安を模した大規模な都市計画に基づいて建設された都について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。  
(2021年 静岡県公立入試 類似)
1. 聖武天皇が仏教による国家の安定を願って、一時的に山城国に遷した都である。                      2. 持統天皇によって建設された、中国の都を模した日本初の本格的な都城である。                      3. 710年に元明天皇が藤原京から奈良に遷都し、律令政治の拠点とした。                      4. 794年に桓武天皇が新しい政治を求めて、京都の地に建設した。
- 
- 問6 聖武天皇が東大寺の大仏を造立した背景や当時の社会状況について述べた文として、最も適切なものはどれですか。  
(2018年 三重県公立入試 類似)
1. この大仏は、運慶や快慶などの彫刻家を中心となって、武士の気風を反映して造られた。                      2. 国家の力だけで建設を進めるため、行基などの僧侶が民衆に協力を呼びかけることは禁止された。                      3. 天皇は、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じ、東大寺をその中心に据えた。                      4. 大仏の建立は、紫式部が源氏物語を執筆し、国風文化が全盛を迎えた時期に行われた。
- 
- 問7 奈良時代には、国家の成り立ちや天皇による統治の由来を記した歴史書と並行して、地方の状況を詳しくまとめた『風土記』が編纂されました。この『風土記』の内容について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。  
(2019年 三重県公立入試 類似)
1. 全国の土地の肥沃さや特産物、地名の由来や古い伝説などが記録された。                      2. 天皇の系譜や神話を中心に、国家の正統性を主張するためにまとめられた。                      3. 防人や貴族など、様々な立場の人々が詠んだ歌を集めた日本最古の和歌集である。                      4. 仏教の力で国を守るため、聖武天皇の命により全国の国ごとに建立された。
- 
- 問8 奈良時代の聖武天皇の時期を中心に栄えた文化について、遣唐使などがもたらした唐の影響を強く受け、大陸や西アジアの要素も含んだ国際色豊かな特色を持つ文化の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。  
(2026年 三重県公立入試 類似)
1. 飛鳥文化                      2. 国風文化                      3. 天平文化                      4. 弘仁・貞観文化
- 
- 問9 平城宮跡から出土した木簡（文字の書かれた木札）に、現在の和歌山県にあたる地域から「調」として「塩」が送られたことを示す記録があります。このように、当時の税が都へ運ばれた状況について説明した文として、正しいものはどれですか。  
(2022年 長野県公立入試 類似)
1. 律令国家の仕組みにより、地方の特産物が納税者によって都まで運搬された                      2. 遣唐使が唐から持ち帰った塩などの生活必需品を、都から地方へ供給した                      3. 日明貿易の輸入品である塩が、堺や博多の商人を通じて都へ持ち込まれた                      4. 琉球王国の使節が、外交の儀礼として各地の特産物を都の貴族へ贈呈した
- 
- 問10 奈良時代に『古事記』や『日本書紀』が編纂された背景にある、当時の政府の意図として最も適切なものを次の中から選びなさい。  
(2019年 千葉県公立入試 類似)
1. 天皇による支配の正当性を、神話や過去の出来事と結びつけて国内外に示すこと。                      2. 平仮名の普及に伴い、漢字を使用しない新しい日本独自の文学スタイルを確立すること。                      3. 地方の特産物や地理的特徴を調査し、徴税制度を強化するための基礎資料とすること。                      4. 仏教の教義を分かりやすく解説し、一般庶民の間に信仰を広めること。
- 
- 問11 律令国家における地方支配の仕組みについて、当時の統治の様子を説明した文章として最も適切なものを選びしてください。  
(2024年 和歌山県公立入試 類似)
1. 軍事指揮官である将軍が各地に地頭を派遣し、現地の行政をすべて武士に委ねた。                      2. 全国を藩という単位に分け、各大名に独自の徴税権や裁判権を認めることで地方を安定させた。                      3. 朝廷が各地の有力豪族を直接「国司」に任命し、世襲的に土地を所有することを認めた。                      4. 中央政府から派遣された国司が国府に赴任し、地方の豪族から選ばれた郡司を指揮して統治した。
- 
- 問12 奈良時代の平城京跡などからは、当時の様子を伝える多くの木簡（もっかん）が出土しています。これらの木簡には、地方から送られた「生蘇（乳製品）」などの品名や送り元の地名が記されており、荷札のような役割を果たしていたことが分かっています。このように、各地の特産物を中央政府へと納める律令制の租税を何といいますか。  
(2023年 京都府公立入試 類似)
1. 庸                      2. 租                      3. 調                      4. 雑徭
- 
- 問13 聖武天皇が国ごとに国分寺や国分尼寺を建て、都に東大寺の大仏を造営した理由として、最も適切な説明を選びなさい。  
(2025年 岩手県公立入試 類似)
1. 大陸との貿易を独占して金銀などの財貨を集めるため                      2. 武士の軍勢力を結集して新しい政権を樹立するため                      3. 仏教の力によって疫病や社会不安などの災いから国を護るため                      4. 地方の豪族を強力な武力で圧迫して支配を強めるため
- 
- 問14 奈良時代、聖武天皇の時代を中心に栄えた文化について、遣唐使などの往来を通じて西アジアやペルシアなどの影響を強く受けた、国際色豊かな特色を持つ文化の名称として正しいものを選びてください。  
(2019年 岡山県公立入試 類似)
1. 天平文化                      2. 化政文化                      3. 国風文化                      4. 飛鳥文化
-

## 答え合わせ・解説

|     |                                                      |                                                                                                                                                                                 |
|-----|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 2<br>鎮護国家の思想                                      | 8世紀の日本では、疫病の流行や政治的な混乱が続いていました。聖武天皇は、仏教の力によってこれらの災いから国家を守り、安定させようとしていました。この「仏教が国を守る」という考え方は鎮護国家と呼ばれ、当時の国家的な仏教政策の根幹となりました。                                                        |
| 問2  | 答え 2<br>大宰府                                          | 九州を統括する特別な役所で、「遠の朝廷（とおのみかど）」とも呼ばれました。地理的に朝鮮半島や中国大陆に近いことから、外国使節の接待を行う外交の窓口としての機能や、防人（さきもり）などを配置して外敵に備える国防の役割を兼ね備えていたのが特徴です。                                                      |
| 問3  | 答え 4<br>天皇を中心とする律令国家の威信を国内外に示し、統治の拠点とするため。           | 当時の朝廷は律令制度に基づいた中央集権国家の確立を目指しており、その象徴として、大陸の先進的な文明を象徴する唐の都のデザインを導入しました。整然と区画された広大な都を建設することは、天皇の権威を国内の豪族に示すとともに、外国からの使節に対して日本が文明国家であることを誇示する役割も果たしていました。                          |
| 問4  | 答え 4<br>調は地方の特産物、庸は布                                 | 律令制度における税の内容を整理すると、「租」は口分田の面積に応じて収穫の約3%の稲を納めるもの、「調」は絹や糸、海産物などの郷土の特産物を納めるもの、「庸」は都での労役の代わりに布を納めるものです。これらは当時の国家財政を支える重要な柱となっていました。                                                 |
| 問5  | 答え 3<br>710年に元明天皇が藤原京から奈良に遷都し、律令政治の拠点とした。            | 律令体制を強化し、天皇を中心とする中央集権国家を完成させるために、大規模な遷都が行われました。この時期は国際色豊かな「天平文化」が栄え、遣唐使を通じて大陸の文化が数多くもたらされたことも特徴です。                                                                              |
| 問6  | 答え 3<br>天皇は、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じ、東大寺をその中心に据えた。      | 聖武天皇は、仏教の力で国を治めるため、全国各地に国分寺と国分尼寺を設置しました。東大寺はその総国分寺として位置づけられています。選択肢にある運慶や快慶は鎌倉時代、紫式部は平安時代の人物であり、時代が異なります。また、大仏造立にあたっては、民衆に影響力のあった僧の行基が協力し、資金や人手を集める上で大きな役割を果たしました。              |
| 問7  | 答え 1<br>全国の土地の肥沃さや特産物、地名の由来や古い伝説などが記録された。            | 『風土記』は、中央政府が地方を管理するために、各国の経済的な資源（産物や土地の様子）や文化的な背景（地名の由来や伝承）を報告させたものです。一方、国家の成り立ちを記したものは『古事記』や『日本書紀』、和歌を集めたものは『万葉集』、仏教によって国を守ろうとしたのは「国分寺・国分尼寺の建立」であり、それぞれ目的が異なります。               |
| 問8  | 答え 3<br>天平文化                                         | 奈良時代は遣唐使の派遣により、唐の制度や文化が日本に直接もたらされました。この時期に聖武天皇が仏教を中心とした国づくりを進める中で開花した文化を天平文化と呼びます。飛鳥文化は推古天皇の時代、国風文化は平安時代中期、弘仁・貞観文化は平安時代初期の文化であり、それぞれ特色や時代背景が異なります。                              |
| 問9  | 答え 1<br>律令国家の仕組みにより、地方の特産物が納税者によって都まで運搬された           | 出土した木簡にある「調」とは、律令国家が地方の特産物の納入を命じた税の仕組みを指します。木簡には「紀伊国（和歌山県）」から「塩」が運ばれたことが記されており、当時の道路網を利用して、地方の産物が遠方の都まで組織的に運ばれていた実態を示しています。これは当時の人々に課された重い負担の一つでもありました。                         |
| 問10 | 答え 1<br>天皇による支配の正当性を、神話や過去の出来事と結びつけて国内外に示すこと。        | 律令国家の形成期において、天皇が日本を統治する根拠を明確にすることは政治的に極めて重要でした。そのため、神代から続く血統の正当性を神話や記録として体系化し、公式な歴史書として残す必要がありました。地方の特産物などを記したものは『風土記』であり、歴史書の編纂目的とは区別されます。                                     |
| 問11 | 答え 4<br>中央政府から派遣された国司が国府に赴任し、地方の豪族から選ばれた郡司を指揮して統治した。 | 律令国家の地方支配は、中央集権的な仕組みが特徴です。中央から派遣された「国司」は、任地の拠点である「国府」に滞在し、実務に精通した地元の有力豪族（郡司）を指揮して税の徴収や戸籍の作成を行いました。藩を置くのは江戸時代、地頭を派遣するのは鎌倉時代以降の仕組みであり、律令制下ではあくまで中央から派遣された官僚（国司）が行政の中心を担っていました。    |
| 問12 | 答え 3<br>調                                            | 律令制のもとで成人男性に課せられた租税のうち、各地の特産物（繊維製品、水産物、加工品など）を中央政府へ納める義務を「調」と呼びます。平城京跡などから出土した木簡は、実際に全国各地から多様な産物が都へ届けられていたことを示す重要な歴史的証拠となっています。なお、田地の面積に応じて米を納めるものは「租」、都での労役の代わりに布を納めるものは「庸」です。 |
| 問13 | 答え 3<br>仏教の力によって疫病や社会不安などの災いから国を護るため                 | 当時の奈良時代には、疫病の流行や政治の動揺といった社会不安が広がっていました。聖武天皇は仏教の力によって国を治め、不安をしずめようとする鎮護国家の思想のもとで国分寺や東大寺を建てました。                                                                                   |
| 問14 | 答え 1<br>天平文化                                         | 聖武天皇の時代には遣唐使が頻繁に派遣され、唐の優れた制度や仏教とともに、シルクロードを経由して西アジアの意匠や技術が日本にもたらされました。この時期の文化は、当時の都である平城京を中心に展開され、仏教的・国際的な色合いを強く帯びているのが特徴です。                                                    |